

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2005-529031 (P2005-529031A)

【公表日】平成 17 年 9 月 29 日 (2005.9.29)

【年通号数】公開・登録公報 2005-038

【出願番号】特願 2003-532373 (P2003-532373)

【国際特許分類】

B 6 5 D 41/32 (2006.01)

B 6 5 D 51/24 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 41/32 A

B 6 5 D 51/24 D

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 8 月 8 日 (2005.8.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

中心縦軸線と、この中心縦軸線と交差する第 2 軸線とを画定し、前記第 2 軸線が前記中心縦軸線に対して直角に延びているような容器を備え、

この容器は、

当該容器内の容器内側と、

この容器内側に対して反対側に配置された容器外側と、

前記容器内側と前記容器外側との間に液体の流通をもたらす開口と、

少なくとも一部が、前記容器外側上に形成され前記第 2 軸線を横切って延びる第 3 軸線上にある第 1 密封面と、

前記容器内側内に収容された一定量の液体と、

前記開口を密封する閉鎖部材と、

を含み、

前記閉鎖部材は、

第 1 壁部第 1 面を有する第 1 壁部と、

この第 1 壁部から延びる、第 2 壁部第 1 面を有した第 2 壁部と、

を備え、

前記第 2 壁部第 1 面の少なくとも一部は、前記第 1 壁部に隣接し、

前記第 1 壁部第 1 面の少なくとも一部は、前記一定量の液体に晒されており、

前記一定量の液体は、その中に溶解された気体を含む、ことを特徴とする密封容器。

【請求項 2】

前記容器は、前記中心縦軸線に沿って前記開口から前記容器内部に向かって延びる第 1 方向を更に画定し、

前記容器は、前記第 3 軸線と前記中心縦軸線との交点に位置する第 1 頂点を更に画定しており、

前記第 1 頂点は、前記開口から前記第 1 方向にある、ことを特徴とする請求項 1 記載の密封容器。

【請求項 3】

前記容器は、第 2 密封面を更に備え、

この第 2 密封面の少なくとも一部は、前記容器外側上に形成され前記中心縦軸線を横切って延びる第 4 軸線上にあり、

前記閉鎖部材は、前記第 2 壁部から延びる第 3 壁部を更に備え、

この第 3 壁部は、第 3 壁部第 1 面を有し、

前記第 3 壁部第 1 面の少なくとも一部は、前記第 2 密封面に隣接している、ことを特徴とする請求項 1 記載の密封容器。

【請求項 4】

容器内側圧力にある容器内側を備えた密封容器のためのプラスチック製ネジなし閉鎖部材であって、

第 1 壁部第 1 面と、この第 1 壁部第 1 面とは反対側に配置された第 1 壁部第 2 面とを有する第 1 壁部と、

この第 1 壁部から延びる第 2 壁部であって、少なくとも一部が第 3 軸線上にある第 2 壁部第 1 面と、この第 2 壁部第 1 面に対して反対側に配置された第 2 壁部第 2 面とを有する第 2 壁部と、

前記第 2 壁部の少なくとも一部に形成された螺旋状脆弱部と、
を備え、

前記第 1 壁部第 1 面は前記容器内側圧力に晒されている、ことを特徴とする閉鎖部材。

【請求項 5】

中心縦軸線に沿って前記第 1 壁部第 2 面から遠ざかるように前記第 1 壁部第 1 面より延びる第 1 方向と、

前記第 3 軸線と前記中心縦軸線との交点に位置する第 1 頂点と、
を画定し、

前記第 1 頂点は、前記第 1 壁部第 1 面から前記第 1 方向にある、ことを特徴とする請求項 4 記載のプラスチック製ネジなし閉鎖部材。

【請求項 6】

前記容器は、前記第 2 壁部第 1 面と前記中心縦軸線との間に形成される第 1 角度を更に画定しており、

前記第 1 角度は 10 度未満である、ことを特徴とする請求項 5 記載のプラスチック製ネジなし閉鎖部材。

【請求項 7】

容器を備えた密封容器であって、

前記容器は、

当該容器内の容器内側と、

この容器内側に対して反対側に配置された容器外側と、

前記容器内側と前記容器外側との間に液体の流通をもたらす開口と、

前記容器外側上に形成された容器第 1 密封面と、

前記容器内側内に収容された一定量の液体と、

閉鎖部材第 1 面を有した、前記開口を密封する閉鎖部材と、

を含み、

当該密封容器は、少なくとも第 1 状態および第 2 状態を有し、

前記第 1 状態においては、前記容器内側が第 1 圧力にあって、前記閉鎖部材第 1 面の少なくとも一部が、前記容器第 1 密封面の少なくとも一部に対して第 1 レベルの力を及ぼし、

前記第 2 状態においては、前記容器内側が第 2 圧力にあって、前記閉鎖部材第 1 面の前記少なくとも一部が、前記容器第 1 密封面の前記少なくとも一部に対して第 2 レベルの力を及ぼし、

前記第 2 圧力は前記第 1 圧力よりも大きく、前記第 2 レベルの力は前記第 1 レベルの力よりも大きい、ことを特徴とする密封容器。

【請求項 8】

前記容器は、中心縦軸線と、この中心縦軸線と交差して当該中心縦軸線に対して直角に延びる第2軸線とを画定し、

前記容器は、前記第2軸線を横切る第3軸線を画定しており、

前記容器第1密封面の少なくとも一部は、前記第3軸線上にある、ことを特徴とする請求項7記載の密封容器。

【請求項9】

(a) 中心縦軸線と、この中心縦軸線と交差する第2軸線とを画定し、前記第2軸線が前記中心縦軸線に対して直角に延びているような容器であって、

当該容器内の容器内側と、

この容器内側に対して反対側に配置された容器外側と、

前記容器内側と前記容器外側との間に液体の流通をもたらす開口と、

少なくとも一部が、前記容器外側上に形成され前記第2軸線を横切って延びる第3軸線上にある第1密封面と、

を備えた容器を用意し、

(b) 第1壁部第1面を有する第1壁部と、

この第1壁部から延びる、第2壁部第1面を有する第2壁部と、

を備えた閉鎖部材を用意し、

(c) 前記容器内側の中に一定量の液体を計量分配し、

(d) 前記閉鎖部材を、前記容器と接するように移動させ、

(e) 前記第2壁部第1面の少なくとも一部を、前記第1密封面に対して密封状態で係合させ、

(f) 前記第1壁部第1面の少なくとも一部を、前記一定量の液体に対して晒す、ことを特徴とする容器の密封方法。

【請求項10】

(a') 前記容器を用意することは、

第2密封面を更に備え、この第2密封面の少なくとも一部は、前記容器外側上に形成され前記中心縦軸線を横切って延びる第4軸線上にあるような容器を用意することを含み、

(b') 前記閉鎖部材を用意することは、

前記第2壁部から延びる第3壁部を更に備え、この第3壁部は、第3壁部第1面を有し、この第3壁部第1面の少なくとも一部は、前記第2密封面に隣接しているような閉鎖部材を用意することを含む、

ことを特徴とする請求項9記載の方法。